

活動報告（視察）

(1) 視察先：

神奈川県藤沢市

(2) 参加者：

赤井 康彦、八木 嘉之、矢吹 安子、辻 真理子、安藤 博

(3) 日時・場所：

2015年2月10日（火）FujisawaSST

【1. 視察目的】

先進的な取り組みを進めるパートナー企業と藤沢市の官民一体プロジェクトにより誕生した、F u j i s a w a サステイナブル・スマートタウンを現地視察するため。

【2. 調査・質問項目】

『調査項目』

①F u j i s a w a サステイナブル・スマートタウンの構想について
藤沢市の重要施策である低炭素社会実現のための「地域から地域に広がる環境行動都市藤沢」の先導的モデルプロジェクトとするとともに、「エレクトロニクスNo.1の環境革新企業」を指向するパナソニックの企業ビジョンを踏まえた環境創造まちづくり拠点として、都市における低炭素化への取り組みを推進するまちづくりモデルプロジェクトとして世界に発信する。

②プロジェクトの概要について

くらしから発想し、サステイナブルに進化する「技術起点からくらし起点」へ

③現場視察

【3. 考察】

パナソニック株式会社の前進である松下電器産業株式会社が、昭和30年代後半に、当時の先端産業として製造技術の粋を結集し、40年余り藤沢市で企業活動営み、産業都市・藤沢を支える大規模製造拠点として、藤沢市の雇用や地域経済の牽引力を担ってきた。しかし、経済環境の変化に伴い約19haにも及ぶ工場の撤退が余儀なくされた。

工場撤退を新たな地域再生の転機と捉え、藤沢市が進める「地域力、市民力による地球温暖化対策」の先進的モデルプロジェクトとして、F u j i s a w a サステイナブル・スマートタウンが構築された。

パナソニック株式会社を代表幹事とし、幹事会員8社、一般会員8社、アドバイザーとして藤沢市をはじめ4団体・企業の協議体で開発され、2018年度に完成する、100年先も「生きるエネルギー」がうまれる街になるように、住宅、商業施設、健康・福祉・教育施設、公園、街区のサステイナブル・スマートタウンであり、未来の都市像が現地にあった。

彦根市の住宅事情によりそのままを展開することは困難だが、E n e r g y 自然のエネルギーと「創エネ・蓄エネ・省エネ」などの先進技術のハイブリッ

ドによって自産自消のエネルギーマネジメントを実現、Security「バーチャル・ゲートドタウン」という新しいセキュリティサービスで、安心・安全な暮らしを実現、Mobility車に乗らない人もアクティブになる。乗る人もエコになる。「トータル・モビリティライフ」を実現、Wellness 日常の生活の中で街にかかわる全ての人々がふれあいながら健やかになれる暮らしを提供、Community 必要な情報をポータルサイトでワンストップを提供。人と人が、人と街がつながり合えるコミュニティライフを実現というコンセプトを取り入れた街づくりは可能だと考える。